

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団 尚温会
事業所名	グループホーム伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成 22 年 2 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを主に取り入れ、利用者さんの満足の行くケアを心掛けている。四季を感じられる食事を中心に、昔ながらの行事や伝統を重んじながら、個人の好みのメニューを多く取り入れ、手作りで暖かく美味しい食を提供しています。利用者さんと共に職員が明るく生活を共にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接の医療法人財団尚温会が母体なので、半年に1度、定期健診を受けており、必要な利用者には胸部X線、心電図、血液検査なども実施している。眼科、歯科の治療が必要な際には、主として職員が付き添って支援しており健康管理には特に配慮がなされている。看取りケアについては、家族と十分な話し合いをし、ケアを望む家族に対しては、関係者と連携を取りながらケアに努めている。利用者は機能に応じて食前・食後の手伝いを行っている。基本的にはメニューを組んでいるが、外食を楽しんだり、パースデイメニューを準備することもある。食事中は会話や笑い声が響き、家庭的な雰囲気の中で、全員が食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 伊予の郷

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 ホーム長 野田いその

評価完了日 平成22年2月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型という点においては、立地条件的には難しい点が多いが、年間を通し、近隣の小学校との交流やら納涼祭等で地域との関わりを持っていこうと実践している。</p> <p>(外部評価) 医療法人財団温尚会が開設しているグループホームである。「住みなれた場所でその人らしい人生を安心して送ってもらえるよう支援する」を理念の柱に、ケアの実践に努めている。しかし理念の中心に、地域との協力性、連携を大切にした地域密着型サービスの意義づけが感じ取れない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣では、なかなか機会も少なく乏しいが、小学生の訪問、なかよし園の訪問、研修生、学生さん達の訪問が年間多くあり、交流している。</p> <p>(外部評価) 小学生、大学生や伊予病院の託児所の幼児たちが訪れ、利用者と楽しく過ごしている。地方祭には獅子舞が立ち寄り、地域の納涼祭には職員が炊き出しに参加し、地域住民と交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 家族の方も含み、年3～4回、地域の民生委員の方にも参加をして頂き、勉強会を開いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族会の後で年4回ほど食事会等で実際の様子などを体験して頂くなど、計画・運営して工夫している。	
			(外部評価) 市担当者、民生委員、数名の家族、職員などの出席を得て、ホームから行事報告を行い、また出席者に災害対策への協力依頼などを行っている。家族からはさまざまな要望や思いを聴き取り、ケアに生かしている。開催回数がやや不足である。	会議は年間6回を目標に実施し、出席者からの意見を十分聞き取り、サービスの向上に繋げていくことが求められる。町内会長等の地域の方の出席を得て、地域の情報を収集したり、地域交流に参加するきっかけづくりの場とする等、運営推進会議を活用していけるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、連絡をとり必ず参加して頂くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日頃から、市担当者とは連携を取り合い、必要な助言を得るよう努めている。研修会には市担当者と情報を交換し合い、疑問点を尋ねて、ケアの向上に役立てるよう心がけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の玄関施錠は別として、自由に出入りでき、かつ安全性を重視して職員間の連携を密にし、拘束しないケアを心掛けている。職員間だけでは解決できない場合は、家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 身体拘束となる言動に関して学習を重ね、一人ひとりの人権を尊重し、自由でのびやかな暮らしが送れるよう、ケアに当たっている。日中は玄関に施錠をせず、利用者を見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月1回職員の勉強会を行い、その中で虐待防止の徹底も行っている。 当ホームでは虐待という項目が出る事の方がむしろ違和感がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 職員の勉強会(月1回)にて行い、認識・把握している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) マニュアルがあり、職員全員、説明・理解・納得済み。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月ケアプラン・行事予定を送付し、連絡を密にしている。 来訪時には近況報告を行い、家族様からの意見や要望等を受ける。又、家族会(年2回)や運営推進会議等を設け、行っている。 (外部評価) ホーム便りを季節ごとに発行し、ホームの行事や利用者の生活の様子を伝えている。また、個人別の通信を月に1度、家族に届けており、その際にはホームへの要望や声を伝えてくれるようお願いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 問題が生じた時点で、話し合いをする。又、月1回は全体でのミーティングを行い確認している。 (外部評価) 毎日ミーティングを持ち、利用者の様子やその変化などを話し合い、職員同士の意見を共有しあって、ケアの向上に繋げている。管理者は、職員の意見を法人代表者に上司を通じて伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) マニュアルがあり、それにて行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ほとんどの職員が研修を積極的に受講し、取り組んでいる。月1回、自分で勉強会のテーマを決め、勉強会にて発表して質の向上に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームとの会（伊予市グループホーム協議会等）や交流の場が少なくなった。 ※他のGHが出来た当初は会も多かった。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人に関する情報・要望を聞き、各スタッフが観察、意見交流しできるだけ本人さんの馴染みの関係作りに努力をし、コミュニケーションをとる様、心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、本人・家族さんに見学をして頂き不安な点などの対処をする。その時に応じて一つ一つ話し合い、解決していく。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面会し支援・要望を聞き、その人に合った必要としているケア、アセスメントを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ”出来ない事のみお手伝い”としての協力し合っの生活、安心感を持って頂ける様なケアに努めている。職員が「ありがとう」の声かけがたくさんある毎日を目指して、日々入居者さんと共に生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 良い距離感で見守れる様にしている。毎月ケアプラン・行事予定を送付し、家族との連絡を密にし家族の協力を得ながら、共に本人を支えていく様にしている。何かある事に家族さんと連絡を取り、本人が快適に過ごせる様、家族さんの協力を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんと協力し、努めている。 馴染みの方や、場所に行ったり、入居さんに聞き支援している。 (外部評価) 家族がたびたび来訪し、利用者と楽しく語り合っている。時折、親戚の来訪もあり、懐かしくひと時を過ごしている。墓参りにも出かけ、動物園や奥道後などの馴染みの場所へ車で出かけて楽しく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 状況を見ながら、気の合う人、合わない人のケア内容を工夫している。 共通する話題等を取り上げ、特にスキンシップを図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も家族からの相談等があれば、出来る限り支援を続けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人のペースに合わせた取り組みをしている。身体の状態も把握し、本人の希望も取り入れている。 (外部評価) 極力、声かけに努め、顔を合わせながら、要望や思いをゆったりした気分で聴き取るよう努めている。居室で落ちついた際に、二人で向かい合い、表情などから思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から聞き出し把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の状態を把握し、変わった事があれば記録して申し送りを行い、職員全員が個々のその日の状態に合わせたケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に会を持ち、急を要する時はその日にミニカンファとして話し合い、解決法や介護・ケアを計画している。	
			(外部評価) 入居前に家族から聴き取った生活の様子や健康状態等を参考にし、日々の生活記録を基にアセスメントを通して、週間、月間の短期の計画を作成する。その後6か月ごとに見直しを行っている。臨機応変な見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録し、スタッフ間で意見交換している。月1回のケアプランと勉強会をし、個々に得た情報を提供し、それに基づき話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者さんの状況を把握し、ニーズに応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 出来る事のみしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 医療連携でき健康管理に努めている。個別の疾病につ いては家族さんの支援もあり、それぞれのかかりつけ 医を受診している。定期的に往診もあり、かかりつけ 医もある。</p> <p>(外部評価) 利用者本人や家族の希望で、入居前からの主治医の診察を受 けることも、系列の病院の往診を受けることもできる。おお むね月に1度の往診と半年に1度定期的に健康診断を受けて おり、必要な利用者には胸部X線、心電図、血液検査なども 実施している。眼科、歯科の治療が必要な際には、主として 職員が付き添って支援を行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問看護との連携で支援でき、24時間連絡が取れて いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療連携が整っており、体調変化時において早めにN s、Drに報告し、対応について相談できる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 必要に応じて医師より説明が家族や本人にあり。</p> <p>(外部評価) 看取りケアに関する対応は、入居前に家族と話し合 い、家族の意思を尊重しながら対応に当たっている。 看取りケアを希望する家族に対しては、マニュアルに 沿って学習を行い、家族、看護師、医師、職員と連携 を取ってケアに当たっている。重度の場合、家族の希 望により系列の病院へ入院する場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会等で救急法の訓練等を行う。又、外部の研修などにも積極的に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練を実施している。消防署の指導のもと、特に夜間を想定した訓練を主とし行っている。 (外部評価) 本年度は2月に夜間を想定し、消防署の指導を得て避難訓練を実施した。マニュアルと緊急連絡簿を作成し、6か月に1度は連絡簿を使って夜間想定連絡訓練を行っている。地域住民の参加は得られていない。ホーム内の家具類は地震時の対応がなされていない。	地震時にそなえて家具類はしっかりと固定しておくことが求められる。町内会自主防災組織代表者には実践的な訓練に参加してもらえよう、普段から協力依頼をしておくことが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々に応じた言葉かけにて対応している。 (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、全職員が十分認識している。人生の先輩として尊敬の念を持ち、プライドを傷つけることのないよう、日々、優しく声かけに努め、落ち着いて安心のできる生活が送れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人さんの思いを言える様な言葉かけをしたり、返答しやすいうように持ちかけて、配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせた取り組みをし、その人がその人らしい生活を支援している。その方の希望、選択できる様なケアプランを作成・実行する。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に合わせ、訪問の理容・美容を利用している。又、週1回”美容教室”と称してお化粧したり、おしゃれを目的としたケア・支援を行っている。着衣も汚れた時点で常に着替える。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 取り組んでいる。それぞれが出来る事を分担して、皮むきや野菜切り、その他楽しく行っている。献立も旬の物を多く取り入れ、その季節に応じたメニュー・バランスに気を配る。 本人の誕生日には、本人の意志を聴き、メニューに取り入れる。 (外部評価) 食前、食後の手伝いを行っている利用者もいる。基本的にはメニューを組んでいるが、利用者の好みに合わせることもあり、外食を楽しんだり、パースデーメニューを準備することもある。食事中は会話や笑い声が多く響き、家庭的な雰囲気である。嚥下機能の低下した利用者には傍らで優しく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を把握し、入居者さんの状態に合わせ、食器や量を決め、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は難しい人もいるが、声かけにてほぼ出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限り、排泄パターンを把握し、支援を行っている。出来るだけ、トイレでの排泄を心掛けている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、身体機能に応じた支援に当たっている。家庭の便器と同じタイプの使用しやすい便器を備え、自然体で排泄支援に当たっている。極力、おむつ使用を減らし、トイレの排泄支援に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事のバランスを取り、又ボール等用具を用いて、楽しく運動できるよう工夫している。水分補給、マッサージなど本人の好みを取り入れ支援する。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の状態に応じ、声かけ入浴できている。夜間の入浴は行っていない。	
			(外部評価) 基本的には2日に1度の入浴支援を行っているが希望により、毎日入浴することもできる。特に入浴を嫌がる利用者はいない。利用者の体調や状況によりシャワー浴や足湯、清拭等で対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のその日の状態を把握し支援する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全体で把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った取り組みが出来る様努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の気分や状態に応じ、外出を行い個別ケアを心がけている。	
			(外部評価) ホームの周囲は坂が多いため、ホームの庭を散歩することもある。暖かい日には、玄関先のベンチでくつろぐこともある。季節に合わせていちご狩りやさつき展、海岸等へ外出している。家族同伴の場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望にてその都度対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る限り、本人の希望に応じ支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 穏やかに過ごせる様工夫できている。季節の花や絵等を飾り、四季を感じて頂く様心掛けている。又、トイレなどは分かりやすく表示している。	
			(外部評価) 共用空間は広く、窓からは柔らかい光が差し込み、ベランダからはのどかな街並みや山並みが一望でき、松山城も眺められる。ベランダで食事を摂ることもある。居間には季節の飾りが飾られている。調理の音や料理の匂いが家庭らしい環境作りに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 数ヶ所にテーブル・ベンチを配置し、その方それぞれ好みの場所を選べ過ごせる様工夫し、カラオケやTVを楽しめるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持って来てもらうようにしている。配置、飾りにも配慮し、居心地よく過ごせる工夫を心掛けている。	
			(外部評価) 居室は明るく、レースカーテンで陽射しを調節出来る。カーテンは不燃性の布を使用している。洗面台が備え付けられ、テレビや馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋にふさわしく、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個人に合わせ、生活しやすい様工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団 尚温会
事業所名	グループホーム伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成 22年 2月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個別ケアを大切に母体病院や訪問看護などと医療連携を図り、安心して穏やかに生活して頂けるよう支援している。
 ・その人らしさを大切に役割(生活歴や残存能力を生かした活動)や楽しみのある(レクリエーションや外出など)質の高い生活を目指している。
 ・季節感や行事食、個人の好みのメニューなども多く取り入れ、手作りで温かく美味しい食事を提供している。
 ・利用さんや職員が共に笑顔で明るく生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接の医療法人財団尚温会が母体なので、半年に1度、定期健診を受けており、必要な利用者には胸部X線、心電図、血液検査なども実施している。眼科、歯科の治療が必要な際には、主として職員が付き添って支援しており健康管理には特に配慮がなされている。看取りケアについては、家族と十分な話し合いをし、ケアを望む家族に対しては、関係者と連携を取りながらケアに努めている。利用者は機能に応じて食前・食後の手伝いを行っている。基本的にはメニューを組んでいるが、外食を楽しんだり、パースデイメニューを準備することもある。食事中は会話や笑い声が響き、家庭的な雰囲気の中で、全員が食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 伊予の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 ホーム長 野田いその

評価完了日 平成22年2月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) その人らしく暮らし続けるという理念となっているが、地域密着型サービスの意義という点では、充分とは言えない。理念の共有は、勉強会・ミーティングなどで常に話し合い実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 医療法人財団温尚会が開設しているグループホームである。「住みなれた場所でその人らしい人生を安心して送ってもらえるよう支援する」を理念の柱に、ケアの実践に努めている。しかし理念の中心に、地域との協力性、連携を大切にした地域密着型サービスの意義づけが感じ取れない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 立地条件や地域性もあり、日常的にはむずかしい所もあるが、行事（地方祭・納涼会等）への参加を通して努力している。</p> <p>(外部評価) 小学生、大学生や伊予病院の託児所の幼児たちが訪れ、利用者と楽しく過ごしている。地方祭には獅子舞が立ち寄り、地域の納涼祭には職員が炊き出しに参加し、地域住民と交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 特別な取り組みはしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いはするが、意見が少なくサービスの向上に活かす所まで行っていない。 (その都度、食事会、避難訓練、認知症への理解など話題提供を行ったり、)	
			(外部評価) 市担当者、民生委員、数名の家族、職員などの出席を得て、ホームから行事報告を行い、また出席者に災害対策への協力依頼などを行っている。家族からはさまざまな要望や思いを聴き取り、ケアに生かしている。開催回数がやや不足である。	会議は年間6回を目標に実施し、出席者からの意見を十分聞き取り、サービスの向上に繋げていくことが求められる。町内会長等の地域の方の出席を得て、地域の情報を収集したり、地域交流に参加するきっかけづくりの場とする等、運営推進会議を活用していけるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 連絡会等に参加して情報交換をしたり、市の行う研修会にも積極的に参加して協力関係を築いている。	
			(外部評価) 日頃から、市担当者とは連携を取り合い、必要な助言を得るよう努めている。研修会には市担当者と情報を交換し合い、疑問点を尋ねて、ケアの向上に役立てるよう心がけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を通じて学び、ミーティングなどで話し合い、身体拘束をしないケアを心がけている。	
			(外部評価) 身体拘束となる言動に関して学習を重ね、一人ひとりの人権を尊重し、自由でのびやかな暮らしが送れるよう、ケアに当たっている。日中は玄関に施錠をせず、利用者を見守る姿勢を大切に、安全な生活を確保するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等で学び、話し合って防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会等で学ぶ機会は持っているが、活用する必要性が今の所は見当たらない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度十分な説明をし、理解・納得をしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等でも、面会時には個々にも要望や意見を出してもらえる機会を設けて意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) ホーム便りを季節ごとに発行し、ホームの行事や利用者の生活の様子を伝えている。また、個人別の通信を月に1度、家族に届けており、その際にはホームへの要望や声を伝えてくれるようお願いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のミーティングで、意見を出し合って運営に生かしている。 (外部評価) 毎日ミーティングを持ち、利用者の様子やその変化などを話し合い、職員同士の意見を共有しあって、ケアの向上に繋げている。管理者は、職員の意見を法人代表者に上司を通じて伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ラダー（介護技術に関する評価チェックシート）や人事考課を行うなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 機会を出来るだけ多く確保出来る様、研修会等の情報を発信し、又日程等にも配慮して受講しやすい様支援している。 ホーム内でも勉強会等で受講した内容を報告して共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会の勉強会や研修会等に参加し、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの習慣をなるべく変えない努力をしている。希望を伝えやすい様、生活に慣れることをまず考えている。耳を傾け話を聞く様、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時から家族さんからの要望も含め、記入してもらっている。また、ホーム長より説明等する際にも直接話ができる場がある。見学・相談などを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 出来ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除、洗濯、調理等の家事は利用者と共に行っている。食事と同じものを一緒に食べている。一緒に生活する中で、支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 1番の援助者は家族であると考えている。担当制になっており、その担当が毎月の便りをしたり、その都度電話をして様子を伝え、共に支え合う努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームでは来客が来やすい雰囲気作りを心がけている。ホーム外への馴染みの場へは、個人的に行く事は難しいが、家族さんと相談しながら支援に努めている。 (外部評価) 家族がたびたび来訪し、利用者と楽しく語り合っている。時折、親戚の来訪もあり、懐かしくひと時を過ごしている。墓参りにも出かけ、動物園や奥道後などの馴染みの場所へ車で出かけて楽しく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事は出来る人がみんなで行うようにしている。その中でも役割として習慣となっている事もある。必要に応じて職員が間に入り、スムーズに行える様援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 母体病院に入院した場合は、時々面会に行くなどをして相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話からも、希望や意向があればその都度対応する努力をしている。月に1度のカンファレンス時など、一人一人のケアを相談し、職員全員で考えている。 (外部評価) 極力、声かけに努め、顔を合わせながら、要望や思いをゆったりした気分で聴き取るよう努めている。居室で落ちついた際に、二人で向かい合い、表情などから思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人と家族より聞き取りを行い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日のケアプランも個人的に作っており、その人に合ったケアが出来る様心がけている。日々の関わりや個人記録、日誌等で現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 年に2回、本人、家族、担当で話し合いそれぞれの意見を聞き、ケアプランへ反映している。必要な関係者（医療等）は必要時にその都度相談するなどし、意見を取り入れている。 担当者が中心になり、カンファレンスを行い他の職員の意見も聞き、介護計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 入居前に家族から聴き取った生活の様子や健康状態等を参考にし、日々の生活記録を基にアセスメントを通して、週間、月間の短期の計画を作成する。その後6か月ごとに見直しを行っている。臨機応変な見直しも行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 毎日、個人記録に様子を記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しをしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 急な受診や家族さんの宿泊など、必要に応じた対応をしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ホーム内での生活がほとんどであり、地域資源との関わりはあまり出来ていない。が、地方祭や納涼祭へは地域からも参加がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 基本的には母体である伊予病院を利用するが、希望が ある方は、本人のかかりつけ医での受診をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者本人や家族の希望で、入居前からの主治医の診察を受 けることも、系列の病院の往診を受けることもできる。おお むね月に1度の往診と半年に1度定期的に健康診断を受けて おり、必要な利用者には胸部X線、心電図、血液検査なども 実施している。眼科、歯科の治療が必要な際には、主として 職員が付き添って支援を行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問時に気になる様子を伝え、相談している。特に急 ぐ場合は、電話にて相談し、必要あればすぐに来てく れ対応してくれている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 母体が主治医のいる病院であり、情報交換や相談が出 来やすい。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 必要に応じて家族、ホーム長、主治医で話し合いを 行っている。職員、関係者全員でその意向を把握する 様になっている。</p> <p>(外部評価) 看取りケアに関する対応は、入居前に家族と話し合 い、家族の意思を尊重しながら対応に当たっている。 看取りケアを希望する家族に対しては、マニュアルに 沿って学習を行い、家族、看護師、医師、職員と連携 を取ってケアに当たっている。重度の場合、家族の希 望により系列の病院へ入院する場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、壁に貼りすぐに対応できる様にしている。 定期的ではないが、応急手当や初期対応の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は実施している。 病院との連携は取れているが、地域の人との連携は出来ていない。 (外部評価) 本年度は2月に夜間を想定し、消防署の指導を得て避難訓練を実施した。マニュアルと緊急連絡簿を作成し、6か月に1度は連絡簿を使って夜間想定連絡訓練を行っている。地域住民の参加は得られていない。ホーム内の家具類は地震時の対応がなされていない。	地震時にそなえて家具類はしっかりと固定しておくことが求められる。町内会自主防災組織代表者には実践的な訓練に参加してもらえよう、普段から協力依頼をしておくことが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立ち、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。また勉強会等で学ぶ機会を持ち、意識向上を図っている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、全職員が十分認識している。人生の先輩として尊敬の念を持ち、プライドを傷つけることのないよう、日々、優しく声かけに努め、落ち着いて安心のできる生活が送れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 尋ねるような言い方や声かけを心がけ、些細なことでも本人が決められるような場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 状況を把握しながら、思いに配慮した個別支援を心がけてはいるが、十分でないところもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個別に対応し、出来るかぎり支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物、調理、片付け等一緒に行っており、ホームの中で大切な活動になっている。 (外部評価) 食前、食後の手伝いを行っている利用者もいる。基本的にはメニューを組んでいるが、利用者の好みに合わせることもあり、外食を楽しんだり、パースデーメニューを準備することもある。食事中は会話や笑い声が多く響き、家庭的な雰囲気である。嚥下機能の低下した利用者には傍らで優しく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来る範囲内で一人一人の状況に合わせて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人に応じた口腔ケアには取り組んでいるが、毎食後までは出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表等を活用し、状態の把握に努め一人一人に合わせた排泄支援を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、身体機能に応じた支援に当たっている。家庭の便器と同じタイプの使用しやすい便器を備え、自然体で排泄支援に当たっている。極力、おむつ使用を減らし、トイレの排泄支援に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給や運動等の働きかけをし、個々に応じて予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や状況に合わせ、希望も確認したうえで入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 基本的には2日に1度の入浴支援を行っているが希望により、毎日入浴することもできる。特に入浴を嫌がる利用者はいない。利用者の体調や状況によりシャワー浴や足湯、清拭等に対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人状況に合わせ、少しでも休息できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬を管理し、内容を把握し服薬支援と症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に応じた役割や楽しみごと等の支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る範囲内で希望にそえるよう支援している。	
			(外部評価) ホームの周囲は坂が多いため、ホームの庭を散歩することもある。暖かい日には、玄関先のベンチでくつろぐこともある。季節に合わせていちご狩りやさつき展、海岸等へ外出している。家族同伴の場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 共用空間は広く、窓からは柔らかい光が差し込み、ベランダからはのどかな街並みや山並みが一望でき、松山城も眺められる。ベランダで食事を摂ることもある。居間には季節の飾りが飾られている。調理の音や料理の匂いが家庭らしい環境作りに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファや椅子を置いたり、デッキに椅子を設置するなど工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の好みや馴染みのもの等を生活スタイルに合わせて、居心地がよいように配慮に努めている。	
			(外部評価) 居室は明るく、レースカーテンで陽射しを調節出来る。カーテンは不燃性の布を使用している。洗面台が備え付けられ、テレビや馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋にふさわしく、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの環境であり、安全確保と自立への配慮をしている。	